

研修医しぐさ



和歌山県医師会

〒640-8514 和歌山市小松原通1丁目1 県民文化会館

電話(073)424-5101代 FAX(073)436-0530

E-mail: ishikai@wakayama.med.or.jp

平成27年10月発行



新たに始まった 「医療事故調査制度」

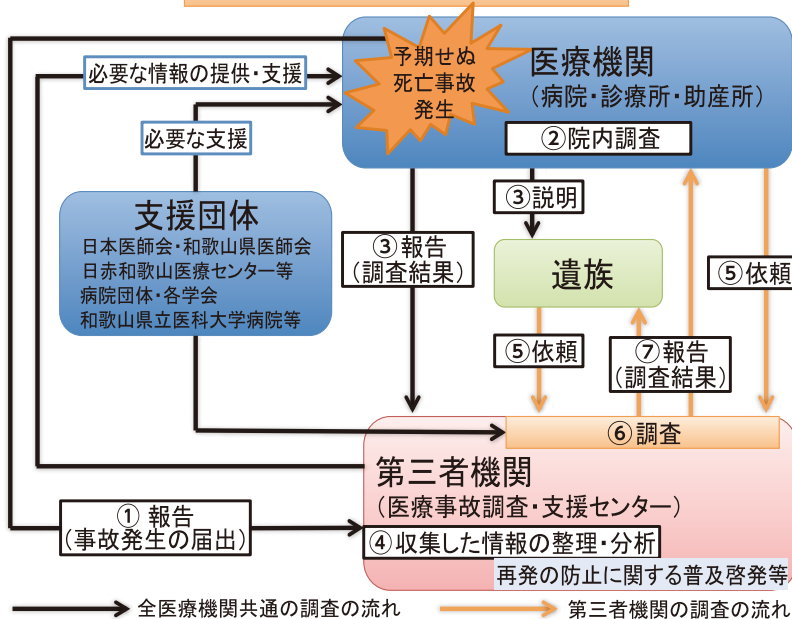
平成27年10月～

和歌山県医師会 副会長 山田和毅

今年10月から施行される医療事故調査制度は、過去の混迷の時代を経て、「医療安全の確保」に主眼をおいてスタートするものです。

本制度では、病院や診療所で「予期せぬ死亡事例」が発生した場合、医療者が自立的に医療事故の調査・分析を行い、民間の第三者機関への報告と、ご遺族への説明が義務付けられています。調査の仕組みと流れについては図表で示していますが、支援団体(地域の外部委員)に支援を求めることで、公平性、中立性を確保することができ、個人の責任を追求するものではない仕組みになっています。県医師会は先生方に安心して医療に取り組んでいただけるよう、本制度の機動的な運用にむけて、他団体の方々々と準備しているところです。

医療事故に係る調査の仕組み



和歌山県立医科大学医学部同窓会
会長 宇野英明



「和歌山県立医科大学」は、今年創立70周年の節目を迎えましたが、この間多くの国内外で活躍する医師を輩出し、地域医療の中核として高度医療を提供すると共に和歌山県の保健福祉の向上に寄与して参りました。

本学同窓会も設立45周年になりますが同窓会の事業活動の1つに若手医師募集の支援助成があります。本学学生のみならず幅広く全国から人材を求めマッチング者数は高水準を維持しており、初期研修先として最適な教育環境と評価されています。吉田宗人病院長の「自由度の高いプログラムで医師としてのスタートを切る」、地域医療支援センター長上野雅己教授の「専門医である前にまず医師として、どんな疾患も、どんな患者さんも診られる総合診療医・救急医としての姿勢と能力を身につける」などの方針や大学の研修環境が研修希望者に受け入れられているようです。

一方、学生には本学教員からのより高度な教育の提供をもとに将来優れた知識と技術を有した医師を目指していただき、併せて人間性(思いやり)あふれる医師になっていただくために、同窓会は学生課外活動支援にも力を入れてそのお手伝いをさせて頂いているところです。

大学の発展、地域の医療保健福祉の向上を願う同窓会としても今後共大学との緊密な連携・協力のもとにサポートを行っていききたいと思います。

講演会等のお知らせ

女性医師フォーラム (臨床に役立つお話しも交えて)

日時: 平成27年11月21日(土) 15:00~16:30
場所: ホテルアバローム紀の国 2F サロン龍門
講師: 日本医師会理事 山本纈子
日本女医会会長
藤田保健衛生大学神経内科名誉教授

和歌山県医師会医学会総会

日時: 平成27年11月29日(日)
場所: ホテルアバローム紀の国
(午前)一般演題発表
(午後)日医生涯教育協力講座セミナー
「認知症に寄り添う」

和歌山県医師会による 平成27年度新臨床研修医歓迎会



平成27年4月2日(木)アバローム紀の国にて

研修医の先生方々へ

こやま小児科

院長 小山佳紀



小児科専門医、子どもの心の相談医の小山佳紀です。私は和歌山で生まれ、高校から大阪に出て大学、医師生活をスタートした後、父親の病気を機に17年振りに和歌山に戻り、和医大小児科にお世話になり、「心身一体のケア」のコンセプトの下、2000年に小児科を開業致しました。現在は、一般小児外来患者さんを診察しつつ、臨床心理士6人と共に、心のカウンセリングを行っています。スタッフもユニークで北海道、広島、鹿児島、京都と、小さな小児科では珍しく出身地も多岐にわたっております。カウンセリングでは、不登校、リストカット、PTSD、虐待(ネグレクト)、身体表現性障害、発達障害、愛着障害、過敏性腸症候群、起立性低血圧など、様々な「心」に関わる相談が多くなり和歌山の子どもたちにとっての“駆け込み寺”のようになってきています。

研修医時代、私は元々教師になりたかったこともあり、小児科を選んで入局いたしました。しかし、あまりの超多忙さ(1ヶ月で13日間当直)のため、自身の身の回りの事もできなくなり、転科をすることもありましたが、当時カウンセリングを行っていた子ども達、子ども達のお父さん、お母さんが泥まみれになって頑張っている姿を見て、自分も踏ん張って小児科を続けようと今までやってこることができました。

医師というのは、好む好まざるに関わらず、“インテリ”に思われがちですが、私は「勉強」ができず、医療業界に入るまで、車の普通免許、趣味の剣道の昇段試験、大学入試、進級試験、国家試験など試験という試験は1回で通ったことがありませんでした。ですが、カウンセリングの中で取って私自身の様々な挫折経験をクライアントさんに伝える事が、クライアントさんの回復に功を奏してきた可能性があるのではと考えております。時代がアナログ時代からパソコン時代が変わっても尚、子ども達は、アナログ時代にいるかのごとく沢山の話をしてくれます。「あのね、先生」と言ってくれる子ども達から元気をもらい、私が子どもたちにカウンセリングしてもらっているような気持ちになることも多々あります。また、親子さんと面談をしていると、その子の背景におじいちゃん、おばあちゃん、御家族、あるいは友人や学校の先生の姿が見えてくるようになりました。子どもの心と関わる上で、「基調(ベース)はその子の気持ち」を念頭においてカウンセリングを行っています。

小児科の教科書ではまだまだ少ない頁数ですが、身体の診察はもちろんのこと、頭の片隅に「心」を置いて、診療していただければ幸いです。そして、小児科に興味があり、「心」関係に進みたい方は是非この領域に来て下さることを望んでいます。

◆日本医師会女性医師バンク◆

バンクのコーディネーターは全員医師です。
バンクにご相談、求人、求職の成立はすべて無料です。
電話番号は03-3942-6512です。お気軽にご相談下さい。

託児サービス

県医師会、郡市医師会、所属部会主催の講演会(製薬会社共催も含む)では、託児サービスを設置できます。託児の場所代やシッター費用を実費補助いたします。

和歌山県医師会迄、お問い合わせ下さい。

先輩女性医師による〈ワークライフバランス〉

和歌山県立医科大学神経内科

学内助教 樽谷潤子

2013年に和歌山県立医科大学を卒業、同附属病院で2年間研修を行い、2015年4月に和歌山県立医科大学神経内科に入局しました。また研修医1年目で結婚、出産し、幸いにも産前産後特に問題なく、産休を厚労省の定める研修中の休業期間として研修期間を延長する必要のない、平日90日以内に収めて復帰しました。現在子供は1歳半、保育園に預けたり、主人や私の実家の協力を得ることで、なんとかフルタイムで勤務させていただいております。夜間当直は免除いただき、平日の病棟医や、休日の日直という形で神経内科の救急対応の経験を積ませていただいております。育児をしながらなので、おそらくは単身で仕事に打ち込まれる先生と比較し、成長の度合は遅いものであろうと思いますが、それでも医局の先生方にご理解とご指導を賜り、少しずつ経験を積めることは、大変ありがたいと感じています。日々、目の前の業務に追われて精一杯な部分もありますが、当面の目標を内科認定医と神経内科専門医の取得と考えています。将来的な働き方はまだわかりませんが、たとえパートタイムのような働き方をせざるを得ない期間があっても、何らかの形で仕事を続けたいと考えています。現在、医師が育児をしながらでも働ける環境があることを、研修医の先生方にもお示しできれば幸いです。最後に、現在お世話になっている医局の先生方、研修中に妊娠・出産・育児ご理解いただき、配慮くださった先生方、同期の先生方に感謝を申し上げ、結びとさせていただきます。

女性医師メンター制度について

平成27年度より経験豊富な先輩(メンター)が後輩(メンティー)のキャリア形成上の課題や悩みの解消を援助する制度が始まりました。詳細は県医師会ホームページまたは関係書類を御覧下さい。

和歌山市医師会研修 医会費について

医師として活動されていく中で、地域医療との連携については避けて通れないことと思われれます。

研修医期間の2年間は会費無料です。ぜひこの機会にご入会していただき、和歌山市医師会の地域医療活動をご理解下さいますようお願い致します。

【入会手順・お問い合わせ】

和歌山市医師会事務局(073-445-5199)に「和歌山市医師会研修医会員について知りたい」とお伝え下さい。

和歌山市医師会 URL: <http://washii-unet.jp>

和歌山県医師会研修医会費無料化について

平成27年度より研修医(2年間)会費減免(無料化)となりました。ぜひご入会下さい。

日本医師会研修医会費無料化について

平成27年度より研修医(2年間)会費減免(無料化)となりました。(日医医師賠償責任保険加入分に関しては別)